

## 送辞

厳しい寒さも和らぎ、中庭の木々の蕾が春の訪れを告げています。

3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。先輩方は、法政高校で過ごした日々をどのように振り返っていらっしゃいますか。何度も上り下りした階段、チャイムの鳴るギリギリまで友達と話に夢中になった廊下、日当たりのいいベランダ。向かい側の仲間に手を振る駅のホーム。冗談を言いあって笑い転げた日々。今数えきれないほどの思い出が頭の中を駆け巡っているのではないのでしょうか。

私たちはこれまで先輩方の背中に憧れ、追いかけてきました。今日ご卒業なさる先輩方の姿を誇らしく思うと同時に、一抹の寂しさを感じずにはられません。

先輩たちは私たちにとっていつも大きな存在でした。スポーツ大会や鈴掛祭、合唱コンクールといった行事の中には、コロナ後ということもあり、前例のない取り組みも多くありました。しかし前例のない取り組みであってもそこに全力でぶつかっていく先輩方の姿勢は私たちにとって大きな憧れでした。そして先輩方と一緒にやり遂げた達成感は何事にも代え難い大切な思い出です。

部活動においても先輩方にはたくさんお世話になりました。生意気な私たちにも先輩方は快く接してくださりました。練習合間に雑談で笑いあった暖かい雰囲気も、ささやかな思い出として心に残っています。その暖かさと部活動に真剣に取り組む力強さはいつも私たちにとっての目標でした。

先輩方が私たちを優しく、時に厳しく指導してくださったことや、共に喜び、時には涙したことも、先輩方と過ごした何気ない日常も、全てが大切な思い出です。

これから先輩方はそれぞれ目指す道に進んでいかれます。それは容易な道のりではないかもしれませんが。新しい環境に不安になったり、さまざまな壁や困難にぶつかったりすることもあるかもしれませんが。しかし、この法政高校で私たちを導いてくださった、たくましくて優しい先輩方なら、どんな困難をも必ず乗り越えていけるにちがいないと私たちは信じています。先輩方はいつまでも私たちの憧れです。これからも私たちにとって輝き続ける存在でいてください。私たち在校生も、先輩方との思い出を生かして、さらに良い学校となるよう、さまざまなことに取り組んでいきます。

最後になりましたが、卒業生の皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

二〇二四年三月九日

在校生代表 松崎祐介